令和5年度（令和4年度分評価）学校法人滋慶学園　札幌看護医療専門学校　学校関係者評価委員会　評価結果および改善方策

学校関係者評価員会実施日　：　令和 5年 6 月 7 日（水 ）16時～18時

評価委員 ：（順不同 敬略　委員長◎）　◎三上真広　加藤 敦　青木一太　佐藤忠寿　中村琢哉　阿部敏幸

【理念・運営目標】	札幌看護医療専門学校は、「職業人教育を通じて社会に貢献する」ことを使命とし、「実学教育」「人間教育」「国際教育」を教育の柱とした、業界に直結した職業人の養成を実践する高等教育機関である。また、「学生・保護者からの信頼」「高等学校からの信頼」「業界からの信頼」「地域からの信頼」を得ることを学校運営の基本方針としている。 本校は、産官学を通じた最先端の医療教育とICT教育を展開し、高度な実践能力を備えた「地域医療を支える人材」育成を実現する。また、変化していく高度な実践能力を備えるために先端医療機関と協同しICT教育を開発し続け、教育の機会を創出することで自ら学び成長し続ける人材を輩出する次世代地域医療に貢献できる学校となる。
【組織目的】	札幌看護医療専門学校は、産官学を通じた最先端医療教育とICT教育を展開し、高度な実践能力を備えた「地域医療を支える人材」育成を実現する。また、変化していく高度な実践能力を備えるために先端医療機関と協同しICT教育を開発し続け、教育の機会を創出することで自ら学び成長し続ける人材を輩出する次世代地域医療に貢献できる学校となる。
札幌看護医療専門学校 【運営方針】	**「産官学連携」「ICT教育」を軸に、学校・学科がONLY1となる。** 1．産官学連携とICT教育システムを完成させる。□ （1）先端医療機関と連携したICT教育を構築する。 （2）札幌学院大学との「大専連携」の先進事例をつくる。□ （3）多職種連携・専門領域「プラスα」のゼミ教育を構築する。 2．常にイノベーションを図る組織となる。□ （1）資源活用事業の実施 学校資源（ヒト・モノ・情報）を活用した事業を実施する。 （2）学科のイノベーション、業界と顧客ニーズに合致した新商品開発を実施する。

※評価は3段階評価であるが評価者平均値のため小数点まで標記

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	2022年度　自己点検	2023年度　重点目標	昨年度 学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 自己点検自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
1　教育理念・目的・育成人材像	教育指導要領 入学案内 事業計画	1-1 理念・目的・育成人材像は定められているか	学園の理念・目的・育成人材像を明確に定めている。 産官学連携とICT教育を学校作りの柱とし、産業界及び地域と共に学ぶ教育環境のもと、最先端の学びで地域に貢献する医療人を養成していく。	2023年度は開校3年目となるため、学園の理念や学校の方針・特色・将来像については繰り返し職員間で共有し、浸透を図る。「慣れ」や「緩み」が起きないようチャレンジ精神を持つことを心掛けていく。 特に医療とテクノロジーの新しい学びの構築は、授業を実施しながら改善を繰り返していく必要があるため、職員間での学び合いを通じて精度を高めていく。 イノベーションについては、2022年度から3学科で電子教科書の導入、視能訓練士学科で大学の心理学部等との選択ゼミ、臨床工学技士学科でオンラインスクールとの連携によるIT授業を展開しているので、効果検証を行い、ブラッシュアップしていく。	3.0	3.0	3.0	全職員と非常勤講師へのICT教育の浸透はよくわかりやすく、学びやすい授業を学生に提供していく上でとても重要だと感じる。今後のICT教育の取り組みに期待。 ICT技術は日々進化しているので、機器や技術が乗り遅れないように注視して欲しい。 高校卒業者だけでなく、大学・短大の在籍者や転職を考えた勤労者等のニーズが増加するのではないか。 3つの教育理念、4つの信頼は明確に示されておりわかりやすい。 理念や方針が明記されており、スタート式等で浸透を図られていることが素晴らしい。 ICT教育を進化させるための取り組みも素晴らしい。 職員間の学び合いによりICT教育のアイディアを更に膨らませてください。	
		1-2 学校の特色は何か	本校の特色は、「産官学連携とICT教育」である。医療×テクノロジーの新しい学びを推進し、医療現場のIT化、デジタル化に対応しうる人材の育成や産官学連携プログラムの構築により地域医療の発展に貢献できる人材の育成に取り組む。ICT教育を推進しWEBやSNSを通じて情報を常に発信し、新しい医療の学校としての価値（ブランド）を創る。		3.0	3.0	3.0		
		1-3 学校の将来構想を抱いているか	将来構想については、毎年作成する事業計画に5年先までの構想を明記し、長期的な視点で学校運営を行っている。刻々と変化する医療業界や地域のニーズを常に取り入れ、学科のイノベーションや新学科・新専攻等をスピード感を持って実践出来る組織にしていく。		3.0	3.0	3.0		
2　学校運営	事業計画	2-4 運営方針は定められているか	学校運営方針は、滋慶学園グループ共通の5カ年計画に基づき、明確に定めている。運営方針の実現のため、月2回の運営会議、月1回の職員全体会議を通じて、問題点や課題を明らかにし、速やかに解決策を出し実行している。	組織の意思決定について） 2023年度は新リーダーを1名任命したが、部署が抱える課題は多くあるので、意思決定や日常業務においても経験豊富なベテランリーダーがサポートしていく必要がある。	3.0	3.0	3.0	現代の流れで男性の育児休暇も認められ、取得されている方も増えていると思う。貴校も就業規則に取り入れており大変有意義な制度なので働いている男性にとって良い環境だと思う。	
	事業計画	2-5 事業計画は定められているか	学校の組織目的に沿った事業計画を作成し、毎年の教職員研修で方針・計画を発表している。また、各部署ごとのリーダーも部署別の計画と予算案を作成しスタッフと共有している。 新規校として開校まもないため、学校・学科の教育体制の整備と運営に係る経費の計画的な収支計画に沿った学校運営を図り中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。		3.0	3.0	3.0	情報システムによってもたらされるメリットは事務の効率化をはじめ職員の仕事量や質によって生じる負担やストレスの軽減が重要であり情報システム化を進めることに共感できる。 各教員が情報共有し事業計画が進んでおり、安定していると思う。	
	事業計画	2-6 運営組織や意思決定機能は、効率的なものになっているか	学校運営に関する意思決定機能は運営会議が担っている。事務局長・学科長・部署長で構成されたメンバーでPDACサイクルを廻すプロセスを構築している。目標志向性の高い組織運営が行われており、組織の全体像は、事業計画書の組織図に示されている。 教職員への通知は、毎日の朝礼・終礼や全体会議、職員間の情報システムを活用して遅れなく周知している。		2.7	3.0	3.0	時代のニーズに対応できるよう柔軟な教育課程の編成に対応していく必要があると思う。 学び合う組織を意識した活動を感じた。	
	就業規則	2-7 人事や賃金での処遇に関する制度は整備されているか	医療系学校としてのコンプライアンスに則り、人事採用計画、人材育成の研修は、システムとして確立され、機能している。 採用は、学園本部が中心となり、採用広報、採用試験を実施している。採用にあたっては、採用基準の基、厳正に実施している。また、学校・チーム・個人の目標を明確にした業務を遂行し、その成果に対して賃金制度を設けている。常に、職場満足度の高い職場環境創りを意識している。		3.0	3.0	3.0	育児パパ制度の活用について印象に残った。 システム化は充分図られていると思う。 事業計画も明確にされており、一つの企業として経営されている姿勢を感じた。	
	事業計画	2-8 意思決定システムは確立されているか	明文化、文章化され定められた事業計画・運営方針を基に、学校運営に関わる全ての人に周知徹底すること、そして、共感してもらうことに、年間通じ力を入れている。各種の研修（教職員・講師）、会議（運営会議・学科会議・部署別会議等）で周知し、運営上、生じる課題についても早めに解決できるように心がけている。		3.0	3.0	3.0	就業規則もアップデートされており、職員の働きやすい環境が整えられている。 サイボーズの導入等、業務の効率化の向上は見習いたい。	
	AS400 サイボウズシステム 口頭説明	2-9　情報システム化等による業務の効率化が図られているか	業務のマニュアル化とシステム化が推進され、学校に関する重要データ（学生・卒業生・教職員・広報・財務など）は学園の業務システムで一元管理されている。また、教職員個人の情報交換も「ガルーン」による学内コミュニケーションシステムや勤怠システム、精算管理システム、人事データバンクシステム等を構築し管理している。		3.0	3.0	3.0	定性的目標「学び合う組織」「チャレンジ精神」はとても良いと思う。	

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2022年度　自己点検	2023年度　重点目標	昨年度 学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 自己点検自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
3　教育活動	教育指導要領	3-10 各学科の教育目標、育成人材像は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	教育課程編成委員会を通じて業界の人材ニーズに向けてカリキュラム変更を行っている。また、厚生労働省の指定カリキュラム変更を見据えて各学科の教育協議会との連携を行いカリキュラムを検討した。	・教務研修を年5回計画し、教員交流を図る内容を創出し、シナジー効果を高める。	3.0	3.0	3.0	授業アンケートの結果で大幅に評価が上がったのは、学校が理念で掲げているICT]教育の推進によるものだと思う。教員、講師研修会の開催やyoutubeの配信等も実施しており担当者の熱意が感じられた。 電子教科署は汚れない、重たくない、持ち運びが便利等利便性をとても感じるが、アンケート評価がいまいちだったのでその要因が疑問に思う。 医療人としての人間教育や実学教育については、学生を見ていると身に付きはじめていると思う。 学び合う組織を意識した教員・講師の研修会を継続して欲しい。 アフターコロナでのICT教育を基にした対面授業やコミュニケーションについて、教職員の連携充実を期待している。 ウィズコロナの中で臨床実習も大変だったと思うが、工夫され実施している。 教員への研修もyoutube配信を行うなど学び合う組織が構築されていた。 授業アンケートでも対前年を上回る評価がすばらしい。	コロナの少子化の影響もあるが、退学者の増加、国家試験の合格率の減少には対策が必須と感じる。
	教育指導要領	3-11 修業年限に対応した教育到達レベルは明確にされているか	実学教育・人間教育・国際教育の理念の下、各学科の養成目的と教育目標を定め、修業年限に応じた教育到達レベルを明確に設定し、教育活動を実践している。コロナ禍の影響で学外実習の制限があり学内実習にて振り返り実習が行われる。教育成果については進級判定会議や卒業判定会議で到達レベルの確認が行われている。		2.5	3.0	3.0		
	教育指導要領	3-12 カリキュラムは体系的に編成されているか	各学科ごとカリキュラムポリシーを明確に定めカリキュラムを定めている。また、基礎科目、専門基礎科目、専門科目の各郡を指導要領上に可視化し、科目間のさらなる連携を図った。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要領	3-13 学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	科目横断的な理解を促すためにも、科目間の連携を図るよう、かつ、学生の習熟度に適合するようカリキュラムマップにより適正な位置づけを行っている。次年度新カリキュラム移行に伴う改定が必要。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要領	3-14 キャリア教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法などが実施されているか	目標設定、実践、評価のプロセスからキャリア教育の推進を図るため、産学官協同教育のプログラムを導入し、協同研究・開発ができる企業・施設・自治体と連携を図った。今年度もコロナ禍の影響により対面とオンラインシステムも活用したハイブリット実施になった。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要領	3-15 授業評価の実施・評価体制はあるか	授業アンケートは、9月、12月に実施し学校全体及び科目毎の課題を抽出した。 公開授業により、教員自ら授業改善の気付きを促す体制となっている。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要領	3-16 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	各専門分野の教員確保に尽力し、組織として教育ができるように配慮している。講師研修会では授業アンケートを元にICT教育の研修を実施し、教員と講師の連携により協力体制を構築している。		2.8	3.0	3.0		
	事業計画	3-17 教員の専門性を向上させる研修を行っているか	学園グループ全体の方針に基づいた体系的なFD研修、分野ごとの教育部会にての研修を実施している。また、ICT教育研修会を適時実施し教育力向上に努めた。年2回の職業実践専門課程認定の教員研修会への参加を行い教員の資質向上に努めた。		3.0	3.0	3.0		
	教育指導要領	3-18 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	成績評価・単位認定の基準は学則、細則に示されているとおり明確である。また、評価の方法に関しても、シラバスに記載し、学生に公開している。		3.0	3.0	3.0		
	画面説明	3-19 資格取得の指導体制はあるか	各学科にて前年の反省をふまえ国家資格対策を展開した。入学学生の状況を考えると、より早期からの対策が必要である。医療系国試対策委員会にて、学科間にて成功事例を共有し、問題点を検討し全員合格を目指す必要がある。		2.3	2.0	2.5		

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	2022年度　自己点検	2023年度　重点目標	昨年度 学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 自己点検自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 学校関係者評価（平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
4　教育成果	画面説明	4-20 就職率(卒業者就職率・求職者就職率・専門就職率)の向上が図られているか	2023年4月1日現在、就職希望者における就職内定率は97.4%となった。残り3人の卒業生が就職活動を継続している。(4/13に100%)また、卒業生の就職希望者率は、94.4%となっており、医療職就職率は100%となった。就職希望から外れた主な学生は、進学(1人:学外進学)や、次年度(国家試験)採用試験再受験(4人)である。 一部の学科で国家試験結果後に就職受験の学生が存在しており、受験先への理解と承諾を得ながら3月末での全員内定を目指したい。	学科間連携を行う交流会および授業を実施する。 入学前からの低学力者対策およびスクールカウンセラー積極的に各クラスに入り学生サポートおよび教員連携を強化する。 担任業務の見直し学生と向き合える時間を講じる。教務事務を設置し、事務作業の軽減に努める。月1回の教務会議で早期に課題を抽出し対応する。	3.0	2.0	2.7	今回コロナ禍における学生の影響も考えられるが、退学者が少し増えていることが気になった。しかし相互支援や個別支援に力を入れており、仲間で支え合えるような良いクラスづくりが出来ているので今後退学者が減少することを期待している。 退学率もコロナ禍の教育を考えると仕方がない事であると感じた。 合格率は高くICT教育の効果がでていると感じた。 メンタルサポートとして相互支援学生サポートを行う等学ぶべき制度だと感じた。 資格取得率低下の原因分析はされているので、解決に向けた教員、保護者、学生間で問題を話し合う場を設けてもよいのではないかと思う。 国家試験、就職対策の複数メンター制は時代に合った試みだと思う。 資格取得率、就職率の向上と退学者の低減はすべて必要なことであるが、学校でできることに限界があると思う。 アフターコロナにおける学生のモチベーションの維持やアップが大切になってくるため対策が必要と思われる。	
	画面説明	4-21 資格取得率の向上が図られているか	毎年、前年の振り返りとともに、時期ごとの目標設定、各検定試験ごとの目標合格率設定を行っている。また、正課外の補習、個別対応を行っている。入学時の基礎学力テストにより、低学力者の早期発見とサポートを実施しているほか、全学科で自己学習の早期習慣化に取り組んでいる。医療系国家資格の取得については、全4学科中2学科において、100%合格となった。1学科のみ全国平均を下回った。		2.5	2.0	2.7		
	画面説明	4-22 退学率の低減が図られているか	退学率について、目標は未達成である。一人ひとりの可能性を最大限に開花させるために、転科転校も視野に入れ、本人の新たなキャリアプランをサポートしている。2022年度の退学者は6.5%であった。		2.2	1.0	1.8		
	入学案内	4-23 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	業界と学校との強固なパイプ作りに、卒業生の就職先訪問を積極的に実施し、同窓会活動を通じて連携を図っている。		3.0	3.0	3.0		
5　学生支援	画面説明	5-24 就職に関する体制は整備されているか	キャリアセンターと教務が一体となって、学生の就職支援にあたっている。各学科の就職活動の時期を意識し、就職講座や一部の学科では企業合同説明会などを開催することにより、就職意識を醸成している。また学生には、企業(求人)情報の提供や状況に合わせた模擬面接を実施するなど、早期就職内定の向上に努めている。 一方、キャリアセンターは定期的に各企業へ訪問し、求める人材や業界動向などを察知し、学校(教務)にフィードバックする体制を取っている。→業界訪問については、新型コロナの影響もあり、実施できていなかったが、2023年度においては、訪問を実施予定。	課外活動を推奨していく。具体的には部活動設置の希望があれば検討を進め、ボランティア活動については積極的に推進する。また、フィリップスジャパン社と連携し進めている「ハートセーフシティ構想」において、救命訓練や救命アプリの重要性をサンピアザ光の広場で広報していく。	3.0	3.0	3.0	今後も引き続き学生と保護者、卒業生の支援体制を充実して欲しい。 同窓会についてもっと積極的に発信した方がよいと感ずる。学園祭等とコラボ開催すると卒業生と在校生の交流や就職相談等ができるのではないかと思う。 幼児や小学生の課外活動は学生にとっても子供たちにとっても有意義であると思う。 保護者連携やリカレント教育等新しい取り組みが行われており、改善のスピードの早さに驚きました。 保護者とのメール活用は有効と感ずる。 卒業生向けリカレント教育の取り組みは良い取り組みだと思う。 学校全体の同窓会の動きが見えない。	
	画面説明	5-25 学生相談に関する体制は整備されているか	カウンセラー（臨床心理士）が勤務するSSC（スチューデントサービスセンター）が整備されている。全学科の入学前保護者説明会にて、SSCを紹介するリーフレットを配布している。		3.0	3.0	3.0		
	画面説明	5-26 学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	本校の学生の71%が給付奨学金を含む日本学生支援機構の奨学金利用者であり公的支援制度の利用率は非常に高い。 そのため学生支援事務局においても奨学金に関する専門スタッフの育成と学生教育に力を入れている。また、家庭の状況に応じた相談も行っており、学費納入方法についても柔軟に対応している。学科においては年に1回保護者会を実施し情報の告知と案内の徹底を図っている。		3.0	3.0	3.0		
	画面説明	5-27 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	日本健康倶楽部（2021年10月からは札幌検診センターに変更）での健康診断の実施に関しては学校保健法に規定するコンプライアンスを遵守し、学生の健康状態の把握と改善を行い、医療法人慶心会による健康管理体制の協力により健康管理の組織体制は整っている。		2.0	3.0	3.0		
	画面説明	5-28 課外活動に対する支援体制は整備されているか	地域と協力し、歯科衛生士学科において幼児向けの歯ブラシ指導等の予防教育、視能訓練士学科において地域の保育園児の眼科検査にあたった。		3.0	3.0	3.0		
	画面説明	5-29 学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	寮については恵庭地区に男子寮1棟、女子寮1棟、男女共用寮2棟、札幌地区に男女寮1棟を有しており、地方からの学生にも対応できる体制となっている。寮には寮長が在駐し健康管理、生活指導を担っている。		3.0	3.0	3.0		
	画面説明	5-30 保護者と適切に連携しているか	各学科においてオンラインを含めた保護者会を入学後学年ごとに実施をしている。保護者説明会では、学習面、就職面、国家試験等の報告を実施の他、必要に応じ学費相談や個別保護者面談による問題解決を行っている。		3.0	3.0	3.0		
	HP	5-31 卒業生への支援体制はあるか	北海道ハイテクノロジー専門学校卒業生と、2022年３月本校卒業生に対して、同窓会組織を結成しており、各学科では勉強会等の卒後教育の実践にあたっている。コロナの影響で、実施は臨床工学技士学科のみ。（リモート）		2.2	2.0	2.5		

項目	関係資料コンテンツ	点検項目	2022年度　自己点検	2023年度　重点目標	昨年度 学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 自己点検自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない		今後の課題
6　教育環境	口頭説明	6-32 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	法規上の施設設備は整っているが、実学教育実践のための学内実習の充実のため、電子教科書は3学科で導入され、各学科充電設備を導入。ネット回線も増強。	・学生における活用事例を集約し、マイクロソフトSharepointで見える化することで、学生間での学び合いを創出する。	3.0	3.0	3.0	学校の校舎見学にて、教育環境は充実した設備が整っておりすばらしい。	
	口頭説明	6-33 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	学外実習については、充分な教育体制を整備しており、学科ごとに企業と連携した実習が計画されている。海外研修は、コロナ禍の影響のため授業や特別講話にて体験を聴講。		3.0	3.0	3.0	ICT環境は充分整備されていると感じた。 3学科で電子書籍も導入されネット回線の増強等見えない部分への投資も行われていることが素晴らしい。	
	防災訓練資料	6-34 防災に対する体制は整備されているか	コロナ禍による影響で教職員の防災訓練は実施でき、防災の意識を高めている。学生、教職員ともに災害時の安否確認システムを各校で有し訓練を行っている。 AEDは設置しており、次年度は救急時における知識の習得と意識付け研修を実施予定。		3.0	3.0	3.0	避難訓練、救急救命訓練も行われており、人に接する医療人としての災害時の心構えも大切に教育いただきたい。	
7 学生の募集と受け入れ	募集要項	7-35 学生募集活動は、適正に行われているか	学生募集活動は、専修各連の定める募集基準に則り、AOエントリーは6月から、出願は9月からその他の受験方法による出願は10月から受け付けている。募集要項に関しては、入試制度、奨学金制度、学費に関して受験生にとってわかりやすい掲載方法を実施している。	医療×テクノロジーの新しい学びを推進、医療現場のIT化、デジタル化に対応しうる人材の育成や産官学連携プログラムの構築により地域医療の発展に貢献できる人材の育成に取り組む。WEBやSNSを通じて情報を常に発信し、新しい医療の学校としての価値（ブランド）を創る。	3.0	3.0	3.0	アプリを使用したオープンキャンパスの取り組みは、ICT教育を理念としている学校の特色としてマッチングしており成果に期待したい。 教育の成果もわかりやすく発信しており、今年度は600名の学生がおり、学生さんが集まりやすい広報だと思った。	高校生はもちろんだが、小中学生を対象とした職業体験はとても良い取り組みだと思う。退学の原因として目的の消失や動機の希薄があり、早い段階からの職業理解は重要であり、退学率低下にも寄与するものと思う。
	入学案内/募集要項	7-36 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか	教育の成果はHPや媒体を通じて広く発信。オープンキャンパスを通じて学校の特徴を体感できるプログラムを構築している。また、地方都市での説明会を実施し、地方在住の高校生を動員することができた。		3.0	3.0	3.0	オープンキャンパスアプリも面白い取り組みだと思った。 今後入学してきた学生がアプリがきっかけで入学を決めた割合がどのくらいかについて知りたい。	
	学則	7-37 入学選考は適正かつ公平な基準に基づき行われているか	学則を基にし、募集要項で明記した入学選考方法通り選考をしており、入学選考委員会を設け入学試験の判定会議を適正かつ公平な基準のもとに実施している。		3.0	3.0	3.0	アプリを活用したオープンキャンパスは、効果的に感じた。	
	募集要項	7-38 学納金は妥当なものとなっているか	学納金は適正かつ妥当なものと考えており、その納付金額、方法に関する情報も適正に行っている。		3.0	3.0	3.0	高校教員対象の見学会、中学生対象の見学会等も効果的であると感じた。	
8.財務	財務資料	8-39 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	キャッシュフローの形態を重視し、収入と支出のバランスはとれており、貸借対照表の翌年度繰越収入超過金はなく負債における問題はない。	予算と実績の差異については、過去2年間の実績をもとに精緻な予算をたて、定点チェックする事で実績を管理していく。	3.0	3.0	3.0	世界情勢が不安定で物価高や光熱費高騰で予算をたてるのも大変だと思う。	
		8-40 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	校舎の新築による設備投資に対する返済計画と事業収支計画を見直し学校及び法人運営の中長期的な財務基盤の安定に努める必要がある。運営面においては管理費等の項目で予算と実績の差異が生じた。		2.7	2.0	2.6	ICT教育をすすめているので、設備投資等永続的に実施しなければならないと感ずる。	
		8-41 財務について会計監査が適正に行われているか	理事会においての内容精査し、監事による監査と外部の監査法人である公認会計士の監査を行っている。		3.0	3.0	3.0	予算管理のずれが起きていたが、コロナ禍での投資は未来の可能性を広げるためのものであると理解している。	
		8-42 財務情報公開の体制整備はできているか	「財務情報公開規程」を作成し財務情報の公開にあたって必要最低限の項目を定め公開している。具体的な事項は「情報公開マニュアル」を作成し、「財務情報公開規程」により管理、運営を行っている。		3.0	3.0	3.0	少子化対策として小中学生対象の「お仕事体験」の実施は職業意識を高める上で有効と思われる。	
9.法令等の遵守	組織図	9-43 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	法令や設置基準の変更等に伴う申請手続き等を迅速に対応できる体制づくりを行っている。教員間での法令・基準の遵守に対する教育、又は研修を継続的に実施している。 また、監事による毎年の監査によりコンプライアンスの実施状況についてチェックしている。	引き続き法令順守、個人情報保護、自己点検・自己評価に基づく学校運営の改善を図っていく。	3.0	3.0	3.0	透明性の高い運営をされている。	
	画面説明	9-44 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	日本プライバシー認証機構より個人情報保護規程運用状況監査を受け、学生、保護者、企業、講師、入学希望者についての個人情報保護について、規定に則り運用を行っている。また、スキル向上のための取り組みとしてITリテラシー資格の取得や研修会を実施している。		3.0	3.0	3.0		
	本会資料	9-45 自己点検・自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	自己点検・自己評価ついての方針、実施を開始し、委員会の形成と外部評価を実施している。 学校関係者評価、並びに教育課程編成委員会での意見を充分に反映し、カリキュラムの見直しやICT教育を含めた新しい教育体制の確立に向けて準備を行っている。		3.0	3.0	3.0		
	HP	9-46 自己点検・自己評価結果を公開しているか	毎年自己点検・自己評価を実施し、HPによる公開は既に実施している。 自己点検自己評価結果をもとに、重点課題について学校関係者評価員と学校づくりの検討を行い、更なる評価の向上に努めている。		3.0	3.0	3.0		

項目	関係資料 コンテンツ	点検項目	2022年度　自己点検	2023年度　重点目標	昨年度 学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 自己点検自己評価 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	本年度 学校関係者評価 （平均） 【3段階評点】 3：出来ている 2：概ね出来ている 1：出来ていない	学校関係者評価委員よりの御意見	今後の課題
10.社会貢献	画面説明	10-47 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか	９月～１１月に地域の方を対象とした「地域医療セミナー」を開催し、毎回定員になるほど好評を得た。 また、札幌学院大学と連携し、地域内のAEDの実態調査と救命講習を実施。さらに厚別区内にある老健施設の職員向けの救命講習会を実施した。	今後も地域との連携を重点課題とし、厚別区・新札幌地区と連携して地域でのボランティア活動と地域課題の解決に取り組んでいく。 具体的には、 ・近隣保育園と連携した歯科講座や視能訓練講座の実習プログラムの実施 ・地域全体での救命率を高める「ハートセーフシティ構想」の推進役となる。 ・厚別区民祭り等での地域健康イベント（無料血圧測定や視力検査）、子供向け職業体験の実施などを実施していく。 また、学校資源を活用した取り組みを推進する「学校資源活用事業」を2023年度計画に盛り込み、実行していく。	3.0	3.0	3.0	地域の人を対象に実施している地域医療セミナーは好評ということで地域連携のためにも今後も継続した取り組みをして欲しい。 地域密着の活動が積極的に参加されているので素晴らしい。 学生の自主的な大学・地域との連携の模索も期待したい。 地域医療セミナーではお世話になった。	
	画面説明	10-48 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	地域と協力し、歯科衛生士学科において幼児向けの歯ブラシ指導等の予防教育、視能訓練士学科において地域の保育園児の眼科検査にあたった。		3.0	3.0	3.0		
11　国際交流	口頭説明	11-49 グローバル人材の育成に向けた国際交流などの取り組みを行っているか	新型コロナ感染症の影響により海外渡航の禁止と合わせて海外研修は実施していない。しかしながら学生に国際教育を提供するため、コロナ禍の影響を考慮し、海外とのオンライン講話や国際経験がある講師に授業を通じて教育を各学科で開催した。	学園のグループネットワークを活用し、オンラインでの海外連携授業などを今後も実施していく。	3.0	3.0	3.0	海外研修で学べるものは多くあると思うが、近年の事情で実施できないことは仕方がない事で、実施できたとしても現在の経済情勢では行きにくいのではないかと思う。 国際交流にはならないが、学校法人内での他校との交流できる機会があってもよいと思う。	